

カツオ県民会議・情報発信分科会（第19回）・議事要旨

2019.02.26 in 司本店

シンポ2部は情報発信分科会

宮田分科会長の代理で、竹内幹事が前回分科会以降のカツオ県民会議の動きを説明。3月29日に県民会議として第5回シンポジウムを開くこと、第2部が「情報発信分科会が担当することになった」ことを伝えた。この後、第2部のコンセプト案を以下のように説明した。

【コンセプト】「高知県民にとってのカツオのこれから」とし、いまはWCPFCという世界レベルでの議論のテーブルには我々の危機感や声は届いていないが、将来WCPFCでカツオ資源の減少について語られるための県民意識を醸成する

【タイトル】「鰹LOVEな高知県民が気になるカツオの現在・過去・未来を語ってみる」

【概要・目的】カツオに関わる方々（パネラー）それぞれの立場・経験からカツオを取り巻く過去・現在・未来を語っていただき、高知県民をコアターゲットにカツオの減少が高知県に何を引き起こすのかを認識してもらおう。これによって、現実問題として、カツオ資源の減少という事実に対してまだ危機感を持っていない高知県民の問題意識を喚起する。

一本釣りーいいね！

次に、シンポジウムの具体的内容について論議。「カツオ資源の危機を訴えるために、県内のそれぞれの現場の生の声を届けたい」「危機をうったえるのはいいが、その後県民に何をメッセージとして伝えるか。その落としどころを決めていた方が良い」「シンポジウムはネット中継したらいい」「巻き網は駄目で、一本釣りが望ましいーというようなネガティブ情報を折り込むのではなく、一本釣りーいいね！というようなポジティブ情報で訴えていくべきだ」などの意見が出た。

6人を目途にパネリスト

この後、シンポジウムのパネリストなどの具体的内容を協議。漁業団体関係者、市場関係者、流通関係者、鮮魚店関係者、観光業界、消費者代表の6人を目途にパネリストの登壇を打診してみることになった。

※3月2日の幹事会で、コロナウイルスの問題でシンポジウムの延期が決定されました。開催時期については、今後の協議事項となります。

※ 次回の情報発信分科会は、4月以降に開催します。